

学校教育目標	○しっかり考える子(問題解決力) ○心やさしい子(人間関係形成力) ○つよく元気な子(体力・活力)	【目指す学校像】	○児童にとって充実した学校 ○保護者にとって信頼できる学校 ○教職員にとって働きがいのある学校
		【目指す児童・生徒像】	○思考力・判断力・表現力を身に付けた子ども ○感性あふれる豊かな心をもつ子ども ○すんで心と体を鍛えることができる子ども
		【目指す教師像】	○ありのままの児童を受け止め、個性を発揮させる教師 ○授業で勝負できる教師 ○家庭・地域との相互理解を深め協働できる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的な方策	取組指標	評価	成果指標	評価	取組の進捗状況	今後の方向性
確かな学力	○基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに主体的・対話的で深い学びによる授業改善を目指す。	○よく見て、よく聞き、よく考える力を培い、思考力・判断力・表現力を身に付けた子供の育成。	○日々の定期テストや学力テストを実施し、年度始めと年度末での結果や変化を分析する。	4 全教員が指導改善を図る。 3 80%～100%未満の教員が指導改善を図る。 2 70%～80%未満の教員が指導改善を図る。 1 70%未満の教員が指導改善を図る。	3	4 学期末の成績で12学級以上で学力の向上がみられる。 3 学期末の成績で9～11学級で学力の向上がみられる。 2 学期末の成績で6～8学級で学力の向上がみられる。 1 学期末の成績で5学級以下で学力の向上がみられる。	未	各教科の基礎的基本の定着に向けた授業改善及び教育課程の見直しを行い、子供たちの学習環境を整えることに加え、校内研究の成果と課題を見直し、主体的に学習に取り組めるよう授業改善に努める。成果指標に関しては、3学期に実施する全校学力調査をもとに、前年度と比較し、評価を行なう。	昨年度の学力テストの結果を各学年分析し、成果と課題を共有する。そして学校全体の実態を把握し、次年度の校内研究の内容や主題につなげていく。
		○ICTを活用した授業を充実させ、児童の「情報活用能力」の育成を図る。	○各学年で昭島市から示されている「子供たちに身に付けてほしいICT操作能力を把握し、質質能力の育成を目指す。	4 全教員が身に付けてほしいICT操作能力を把握し、指導している。 3 80%～100%未満の教員が身に付けてほしいICT操作能力を把握し、指導している。 2 70%～80%未満の教員が身に付けてほしいICT操作能力を把握し、指導している。 1 70%未満の児童がICT操作能力を身に付けている。	未	4 90%以上の児童がICT操作能力を身に付けている。 3 80%～90%未満の児童がICT操作能力を身に付けている。 2 70%～80%未満の児童がICT操作能力を身に付けている。 1 70%未満の児童がICT操作能力を身に付けている。	未	各教科の指導の中でICTを活用した学びは実践できているが、昭島市が示している「子供たちに身に付けてほしいICT操作能力」の確認が不十分である。	昭島市の「子供たちに身に付けてほしいICT操作能力」を職員に再度周知し、各学級で具体的な能力を意識して実践ができるようにしていく。
		○読書活動の推進と言語能力の育成に向け、学校司書及びボランティアや委員会の活動等で連携を図り、子供たちの読書活動の一層の推進を行う。	○学校司書が中心となり、ボランティアや委員会の活動等で連携を図り、子供たちの読書活動の一層の推進を行う。	4 各学級で図書室を月4回以上使用した。 3 各学級で図書室を月3回以上使用した。 2 各学級で図書室を月2回以上使用した。 1 各学級で図書室を月1回以下使用した。	3	4 90%以上の児童が2週に1度以上図書室を利用している。 3 80%～90%未満の児童が2週に1度以上図書室を利用している。 2 70%～80%未満の児童が2週に1度以上図書室を利用している。 1 70%未満の児童が2週に1度以上図書室を利用している。	3	図書室の利用状況については、現時点の状態が年度末まで継続する想定される。通常時の利用状況は、週に1回の学級での利用による、低学年を中心に休み時間の貸出も行われている。その一方で、図書室での学級利用が難しい学級もあり、平均は月3回程度となっている。	学期に1度の読書時間には成果が出ているため、委員会児童、学校司書と連携を図り、通常時の休み時間の利用者が増えるようにしていきたい。
豊かな心	○相手の気持ちを想像し、人との関わりを大切にできる豊かな心を育成する。	○児童の自己肯定感を高め、常に相手のことを考え行動することができるようにする。	○学級の実態に応じた指導し、HOU調査を2回実施し、結果を分析する。	4 全教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行なった。 3 80%～100%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行なった。 2 70%～80%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行なった。 1 70%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行なった。	4	4 2回目の結果で12学級以上で学級満足度の向上がみられる。 3 2回目の結果で9～11学級で学級満足度の向上がみられる。 2 2回目の結果で6～8学級で学級満足度の向上がみられる。 1 2回目の結果で6学級以下で学級満足度の向上がみられる。	2	今年度、3年生以上で行なっているHyper-QUの6月の結果では、約65%の児童が学級満足度に満足している。昨年度より、「学級経営」を軸とした校内研究を推進してきたことにより、3年前からの同時期の比較では、学級満足度が増加し続けている。	3年前から「非承認群」は、10～15%と一定の割合である。「非承認群」を減少させる取組、集団への所属意識を向上させていきたい。
		○道徳科を道徳教育の要の時間と位置付け、教科横断的な視点で、年間指導計画に位置付け、計画的に指導し、道徳教育の一層の充実を図る。	○教科横断的な視点で、年間指導計画に位置付け、教科横断的な視点で各教科にて、計画的・発展的に行なうようにする。	4 すべての教員が各教科と連携付け、道徳教育を行なった。 3 70%～100%の教員が各教科と連携付け、道徳教育を行なった。 2 40%～70%の教員が各教科と連携付け、道徳教育を行なった。 1 40%未満の教員が各教科と連携付け、道徳教育を行なった。	3	4 学校生活アンケート調査の関連項目から90%以上。 3 1学校生活アンケート調査の関連項目から70%以上。 2 1学校生活アンケート調査の関連項目から50%以上。 1 1学校生活アンケート調査の関連項目から30%以上。	未	道徳教育年間指導計画をもとに、各教科と連携させながら、全学級で週に一時間計画的に、道徳の授業を実施している。	道徳授業地区公開講座前に、道徳教育年間指導計画をもとに全教員で他教科との関連について確認する時間をもち、意識向上を図る。
		○3年回の学校生活アンケートからみんながよりよく生きていくための早期発見解決に努める。	○いじめを許さない心を育て、いじめの早期発見解決に努める。	4 全教員がいじめの定義に対する理解度に応じた指導を行なった。 3 100%未満の教員がいじめの定義に対する理解度に応じた指導を行なった。 2 70%～80%未満の教員がいじめの定義に対する理解度に応じた指導を行なった。 1 70%未満の教員がいじめの定義に対する理解度に応じた指導を行なった。	3	4 学校生活アンケート調査の関連項目から90%以上。 3 1学校生活アンケート調査の関連項目から70%以上。 2 1学校生活アンケート調査の関連項目から50%以上。 1 1学校生活アンケート調査の関連項目から30%以上。	4	年間3回の学校生活アンケートを実施した結果、いじめと認知される内容の記述が見られなかった。また、全教職員が、いじめの定義を踏まえた上で、児童観察を常に行なっており、重複しないじめについてつぶらなくして早期発見・早期解決、組織的対応に努めている。全教職員に対していじめに関する研修を年3回実施している。	いじめに対する理解を、全児童に指導するとともに、引き続か教職員も早期発見・早期解決、組織的対応に努めている。
健やかな体	○自分の心と体の健康に关心をもち、基礎的な体力と心身の育成と向上を図る。	○児童体力・運動能力、生活運動習慣の向上に向け、運動の習慣化を図り、体力の向上を推進する。	○体力向上プロジェクトや短なわや長なわの取組を実施し、運動の習慣化を図り、体力の向上を推進する。	4 全教員が計画を活用した指導を行なった。 3 80%～100%未満の教員が計画を活用して指導を行なった。 2 70%～80%未満の教員が計画を活用して指導を行なった。 1 70%未満の教員が計画を活用して指導を行なった。	未	4 調査結果が昨年比2ポイント以上。 3 調査結果が昨年比～2ポイント。 2 調査結果が昨年比-2ポイント以内。 1 調査結果が昨年比-2ポイント以下。	未	体力向上プロジェクトの一環として、運動委員会の児童を中心とし、定期的に運動会を開催する。また、体力向上部を中心とし、体力テストの結果を分析し、今年度の成績と課題を検討し、3学期や次年度の活動に向けて準備を進めている。	2・3学期は綱引きの取り組みや「休み時間外出による定期的な運動」を実施する予定。体力テストの結果から全国平均と比較して成績や課題を分析していく。
		○規則正しい生活と健康・安全に留意できる児童の姿を目指す。	○規則正しい生活と健康・安全に留意できる児童の姿を目指す。	4 全教員が計画的な指導を実施した。 3 80%から100%未満の教員が計画的に指導した。 2 70%から80%未満の教員が計画的に指導した。 1 70%未満の教員が計画的に指導した。	4	4 90%以上の児童が目標を達成している。 3 80%～90%未満の児童が目標を達成している。 2 70%～80%未満の児童が目標を達成している。 1 70%未満の児童が目標を達成している。	3	6月の主なカードの提出率は11学級94%だった。グッドモーニング60分の取り組みを5月で実施している児童は13%、6月以上では53%だった。職員会議で課題が指導についての研修を行なうとともに、朝会についてスライド資料や養護教諭から提供している。また2学期は運動会の実施に関する指導を全学級で行なっている。	グッドモーニング60分の取り組みをきっかけに、休み時間改善や排便習慣などが身に付くよう重要な性を児童や保護者に発信していく。2学期のすまいるカードの結果を検証し取り組みに生かす。
		○食に関する望ましい食習慣の形成を促進する。	○学校給食やお弁当の日を通して食の大切さを考えさせる。	4 全教員が食育計画を活用した指導を行なった。 3 80%～100%未満の教員が食育計画を活用して指導を行なった。 2 70%～80%未満の教員が食育計画を活用して指導を行なった。 1 70%未満の教員が食育計画を活用した指導を行なった。	4	4 90%以上の児童が食育のめあてを達成している。 3 80%～90%未満の児童が食育のめあてを達成している。 2 70%～80%未満の児童が食育のめあてを達成している。 1 70%未満の児童が食育のめあてを達成している。	未	お弁当の日は食事について考える機会とし、ワークシートを使って各学級で指導をしている。2学期以降は、お弁当の日をたれわり班活動と同時に実施する計画を立て、特別活動を通じて食に関する意識を高める取り組みを行う予定である。	ワークシートを改善したことにより、児童がすくんで食について考えるようになつた。たれわり班でのお弁当の日の実施の効果については、2学期、3学期の実施の実績を見て検証する。
輝く未来	○子どもたちが自立できる基礎を培う。また、日本の伝統・文化の良さを理解し郷土を愛する態度を育成する。	○幼保・小中が連携し、児童が安心して進級・進学できるようにする。	○幼保小中連携教育の推進を図るとともに、学年始めに「キャリアパス」を作成し、目標をもって生活を送れるようにする。	4 全教員が方策を実施した。 3 80%～100%未満の教員が方策を実施した。 2 70%～80%未満の教員が方策を実施した。 1 70%未満の教員が方策を実施した。	4	4 90%以上の児童がキャリアパスを書き、成長の記録を持った。 3 80%～90%未満の児童がキャリアパスを書き、成長の記録を持った。 2 70%～80%未満の児童がキャリアパスを書き、成長の記録を持った。 1 70%未満の児童がキャリアパスを書き、成長の記録を持った。	4	自分の将来について考えながら、自らの学びや成長を振り返り、自己理解を深めていくために、「自分の目標をもって行動する力を育む」学びの記録を蓄積し次の一歩につなげる視点などを適宜見直したり、より価値のある活動となるよう工夫して取り組んでいく。	瑞雲学区の学校ともキャリアパスの内容を共有したり、今度でキャリアパスの用紙や振り返りの視点などを適宜見直したり、より価値のある活動となるよう工夫して取り組んでいく。
		○教育活動を通して外部人材と交流体験できるようにする。	○文化、スポーツ、高齢者、外国人、地域工場・店舗等での学びの場を各学年設定する。	4 全学年の教員が交流体験を実施した。 3 80%～100%未満の学年・教員が交流体験を実施した。 2 70%～80%未満の学年・教員が交流体験を実施した。 1 70%未満の学年・教員が交流体験を実施した。	4	4 全学年で外部人材を活用した授業を行なった。 3 19学級以上で外部人材を活用した授業を行なった。 2 6学級以上で外部人材を活用した授業を行なった。 1 14学級以上で外部人材を活用した授業を行なった。	2	1学期には、6年生「いのちの授業」で人権擁護委員の方や助産師さんをお招きし、いのちの大切さを考える授業を実施。5年生では環境学習での出前授業を実施。2学期には2年生による自治会のシルバーサンとの交流や他の学年でも出前授業を行なっていく。	児童の実験に応じて、英語していく出前授業と毎年の必修授業となり、学んだりする必要のある出前授業など、実施後の振り返りしたり、実施内容や特別な通りあつたか、実施後の見直し、次年度につなげていく。
		○家庭・地域の声を活かすとともに、学校の教育活動を情報発信していく。	○学校HPやマスコミにより等を通して保護者や地域に向けて児童の活動等を発信したり、行事や学校公開の際にアンケートを取り、改善を図っていく。	4 各行事の実施を受け、すべての行事でアンケートを実施した。 3 各行事の実施を受け、5割程度の行事でアンケートを実施した。 2 各行事の実施を受け、5割程度の行事でアンケートを実施した。 1 各行事の実施を受け、3割程度の行事でアンケートを実施した。	4	4 80%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 3 150%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 2 20%以上の保護者が教育活動への理解を示している。 1 120%未満の保護者が教育活動への理解を示している。	未	1学期の学校評価を通して、学校便りの発信方法や行事や保護者会後のアンケート調査等について話し合い、取り組み内容について見直している。また昨年度に引き続き、校長がホームページを逐一更新して、子供たちの教育活動を発信している。	今後はICT担当と連携して学校から配布するお便りの発信方法を見直し、保護者や地域の方に学校の様子や教育理念を知ってもらえるよう工夫していく。